

## 第46回 高輪築堤調査・保存等検討委員会

# 開催記録（案）

### 1 開催概要

- 日時：令和6年8月7日（水）10：00～12：00
- 場所：JR 東日本現地会議室
- 出席者：

表 出席者一覧

|        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|--------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 委員長    | ・谷川 章雄氏（早稲田大学名誉教授）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| 委員     | ・老川 慶喜氏（立教大学名誉教授）<br>・小野田 滋氏（鉄道総合技術研究所 アドバイザー）<br>・古関 潤一氏（東京大学名誉教授・ライト工業株式会社 R&D センター テクニカルオフィサー）                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| オブザーバー | ・文化庁文化財第二課 史跡部門<br>・港区 街づくり支援部<br>・港区教育委員会事務局 教育推進部 図書文化財課<br>・東京都 教育庁 地域教育支援部 管理課<br>・東京都 建設局 道路建設部 鉄道関連事業課<br>・東京都 交通局 建設工事事部 計画改良課<br>・独立行政法人都市再生機構 東日本都市再生本部 都心業務部<br>・独立行政法人都市再生機構 東日本都市再生本部 技術監理部<br>・JR 東日本コンサルタンツ株式会社<br>・東日本旅客鉄道株式会社 構造技術センター<br>・東日本旅客鉄道株式会社 グループ経営戦略本部 品川・大規模プロジェクト推進部門<br>・東日本旅客鉄道株式会社 建設工事事部<br>・京浜急行電鉄株式会社 鉄道本部 建設部<br>・京浜急行電鉄株式会社 生活事業創造本部 品川開発推進部 |
| 事務局    | ・京浜急行電鉄株式会社 鉄道本部 建設部                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| サポート   | ・パシフィックコンサルタンツ株式会社                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |

■ 当日配布資料

部会②

- ・ 次第
- ・ 資料１：京急線連立 東西自由通路付近の暗渠位置確認において発見された遺構について
- ・ 資料２：調査の進捗について

## 2 議事要旨

---

### 2.1 部会②

#### (1) 開会

- 第 46 回 高輪築堤調査・保存等検討委員会の部会②を開会する。(事務局)

#### (2) 京急線連立 東西自由通路付近の暗渠位置確認において発見された遺構について

- 資料 1 について説明する。(京急)

##### <説明概要>

- 東西自由通路付近の試掘調査で発見された遺構について説明する。
- K-P61 のC地点の試掘調査でライナープレート8段目から木杭2本、矢板3枚、敷板が検出された。
- 資料 1-1 の A-A 断面図に第2暗渠の断面図が出ているが、材質はコンクリートか。無筋構造物の典型的な断面形状のように見える。(小野田委員)  
← レンガで作られていると思われる。試掘ではこの構造物に当たっていない。(京急)
- 位置的には、第2暗渠を作るときの仮設部材ではないかと思われる。(小野田委員)
- C地点は民地境の石垣を想定する箇所隣接し、ちょうど舟入のコーナー付近に当たる場所なので、遺構の判断としては微妙な位置となる。(委員長)
- 木杭と矢板と敷板は一連の構造物と捉えたほうが良いと思う。敷板を矢板で止めている構造に見えるが、これがどの程度広がりを持っているか確認できておらず、現状では文化財的な評価は難しいと考える。(委員長)
- A地点、B地点を今後調査するのであれば、その調査結果を踏まえて判断ということになる。(小野田委員)
- 現状では、この場所に杭を打設することは難しいという判断をせざるを得ない。今後の対応は、京急と文化財行政で相談してもらいたい。これを委員会の見解として良いか。(委員長)  
← 異議なし。(委員一同)
- 調査を進めていくので、適宜ご指導をお願いします。(京急)

#### (3) 調査の進捗について

- 資料 2 について説明する。(港区)

### <説明概要>

- 北棟南端部山留工事に伴う5本のボーリング調査結果と、北棟西端部山留工事に伴うトレンチ調査結果を報告する。
  - 北棟南端部山留工事に伴うボーリング調査の結果、構造物は確認されず、地層状況は硬質粘土層をはじめとする自然堆積層の上に貝混じり黒褐色砂質土、泥のような暗灰色粘土、その上に埋立土が乗るという周辺の調査結果と同様であった。
  - No.1～4では、自然堆積層上面はT.P.-1.4～-1.5mで確認されているが、No.5では1mほど低くなっており、旧地形によるものか、人為的なものかはボーリング調査では確認できない。
  - No.5では上層部にレンガの破片が確認できた。
  - トレンチ5では3列遺構が検出され、東から築堤構築時の東海道の板柵である「C:土留列」、間知石の「B:石積み」、17世紀中頃以降と想定される「A:木柵列」となる。
  - 硬質粘土層は確認した断面図では「A:木柵列」のところで止まっているが、今後トレンチ全体での基盤層のあり方を確認する必要がある。
  - トレンチ7では4列の遺構が検出され、「A:木柵列」、「B:石積み」、「C:土留列」、「D:不明木」となる。この4列の上に支持杭、さらにその上にはコンクリート基礎の上に形成された大きなレンガ構造物が確認された。これがいつのどのような建物だったか調べる必要がある。
  - トレンチ7の「B:石積み」はトレンチ5に比べて並び方が乱雑だが、上に構造物もあったので崩された可能性もある。
  - 「C:土留列」の海側で検出された「D:不明木」は、恐らく「C:土留列」以前のものではなく、「C:土留列」施工時に利用されたものと考えている。
  - 遺構の状況から、トレンチ5～7の間にも土留列等の遺構が残っていると判断する。
- ボーリング調査では特段の構造物が確認されておらず、これまでの山留工事打設の評価に則り、北棟南端のトレンチ7の範囲以外の山留打設を可と判断したい。(谷川委員長)
    - ← 異議なし。(委員一同)
    - 北棟南端の山留工事は可とする。(委員長)
  - トレンチ5の状況から、高輪大木戸から品川駅のあたりまで遺構がつながっているものと捉えて良いと考える。(委員長)
  - トレンチ5とトレンチ7の間がどうなっているか、今後考えていかなければならない。遺存状況を確認して保護措置を考える、という方向で進めたいが良いか。(谷川委員長)
    - ← 異議なし。(委員一同)
    - 今後、トレンチ5とトレンチ7の間の調査を検討してもらうようお願いしたい。(委員長)
  - 資料2-3の断面図で、赤色の層が西側に続くと考えると、この部分が近世東海道の高さと判断して良いか。(都教育)
    - ← 改変されている可能性もあるので、東海道の路盤面と定義づけることは難しいが、国道側の調査ができれば確認できると思う。現時点では判断できない(港区)

← 石垣がもう少し高かったと思うので、削られている可能性がある。これだけでは東海道の路面高さと断言できず、後世の改変を受けている可能性があるという現状認識で良い。(委員長)

●石積みBは、この下にさらに続いているのか。(文化庁)

← 現場で確認したのは1段のみであり、恐らくないだろう。(港区)

→ 石垣の最下段1段のみを残して、あとは築堤に転用されたと理解した。(文化庁)

#### (4) その他

#### (5) 閉会

### 3 議事録

---

#### 3.1 部会②

##### (1) 開会

(委員長) 次第に沿って進める。

##### (2) 京急線連立 東西自由通路付近の暗渠位置確認において発見された遺構について

(京急) 資料1について説明する。東西自由通路付近の試掘調査で検出された遺構について説明する。K-P61のC地点の試掘調査において、計画ではライナープレート10段目(T.P.-0.75m)まで掘削する予定であったが、ライナープレート8段目(T.P.+0.25m)で遺構が検出された。検出された遺構は木杭2本、矢板3枚、敷板である。木杭は直径約100mm、矢板は厚み約25mm、敷板は厚み約20mmとなる。

(委員長) 質問、意見はあるか。

(小野田委員) 資料1-1のA-A断面図に第2暗渠の断面図が出ているが、材質はコンクリートか。無筋構造物の典型的な断面形状のように見える。

(京急) レンガで作られていると思われる。試掘ではこの構造物に当たっていない。

(小野田委員) 位置的には、第2暗渠を作るときの仮設部材ではないかと思われる。

(委員長) C地点は民地境の石垣を想定する箇所に隣接し、ちょうど舟入のコーナー付近に当たる場所なので、遺構の判断としては微妙な位置となる。木杭と矢板と敷板は一連の構造物と捉えたほうが良いと思う。敷板を矢板で止めている構造に見えるが、これがどの程度広がりを持っているか確認できておらず、現状では文化財的な評価は難しいと考える。全体像を確認する必要があるが、現状ではこの場所に杭を打設することは難しいという判断をせざるを得ない。今後の対応は、京急と文化財行政で相談してもらいたい。

(小野田委員) A地点、B地点は今後調査するのか。

(京急) その通りである。

(小野田委員) その調査結果を踏まえて判断ということになる。

(委員長) 委員会の見解として良いか。

(委員一同) 異議なし。

(京急) 調査を進めていくので、適宜ご指導をお願いする。

(委員長) 他に何かなければ、次に進める。

### (3) 調査の進捗について

- (港区) 資料2について説明する。北棟南端部山留工事に伴うボーリング調査、北棟西辺部山留工事に伴うトレンチ調査である。資料2-1に今回の報告範囲を、資料2-2に北棟南端部山留工事に伴うボーリング調査結果について示す。山留箇所では5本のボーリング調査を実施した。硬質粘土層をはじめとする自然堆積層の上に貝混じり黒褐色砂質土、泥のような暗灰色粘土、その上に埋立土が乗るという構造は、周辺の調査結果と同様であった。No.1～4では、自然堆積層上面はT.P.-1.4～-1.5mで確認されているが、No.5では1mほど低くなっており、旧地形によるものか、人為的なものかはボーリング調査では確認できない。また、木片や石片等の構造物の一部と見られるものは確認されなかったが、No.5では上層部にレンガの破片が確認できた。資料2-3にトレンチ5の調査成果について示す。3列遺構が検出され、東から築堤構築時の東海道の板柵である「C:土留列」、間知石の「B:石積み」、17世紀中頃以降と想定される「A:木柵列」となる。「A:木柵列」が最も古く、「C:土留列」が最も新しいと考えている。硬質粘土層は、確認した断面図では「A:木柵列」のところで止まっているが、今後トレンチ全体での基盤層のあり方を確認する必要がある。資料2-4にトレンチ7の調査成果を示す。4列の遺構が検出され、「A:木柵列」、「B:石積み」、「C:土留列」、「D:不明木」となる。この4列の上に支持杭、さらにその上にはコンクリート基礎の上に形成された大きなレンガ構造物が確認された。これがいつのどのような建物だったか調べる必要がある。地図等では郵便局という表記もあったので、公的な施設の一部ではないかとも思っている。「A:木柵列」は最も古く17世紀中頃以降に作られた東海道関連の遺構で、「B:石積み」はトレンチ5に比べて並び方が乱雑だが、上にレンガ構造物もあったので崩された可能性もある。「C:土留列」は明治5年に東海道の路肩の補修に使用したものだと考えている。「C:土留列」の海側に検出された「D:不明木」は、恐らく「C:土留列」以前のものではなく、「C:土留列」施工時に利用されたものと考えている。遺構の状況からトレンチ5～7の間にも土留列等の遺構が残っていると判断する。
- (委員長) 質問、意見はあるか。
- (委員長) ボーリング調査では特段の構造物が確認されておらず、これまでの山留工事打設の評価に則り、北棟南端のトレンチ7の範囲以外の山留打設を可と判断したい。
- (委員一同) 異議なし。
- (委員長) トレンチ5と7の成果だが、トレンチ5の状況からすると、高輪大木戸から品川駅のあたりまで遺構がつながっているものと捉えて良いと考える。トレンチ5とトレンチ7の間がどうなっているか、今後考え

ていかなければならない。ただし、トレンチ7については木柵列がなく杭列のみであった。遺存状況を確認して保護措置を考える、という方向で進めたいが良いか。

(都教育) 資料2-3の断面図で、赤色の層が西側に続くと考えると、この部分が近世東海道の高さと判断して良いか。

(港区) 改変されている可能性もあるので、東海道の路盤面と定義づけることは難しいが、国道側の調査ができれば確認できると思う。現時点では判断できない。

(委員長) 石垣がもう少し高かったと思うので、削られている可能性がある。これだけでは東海道の路面高さと断言できず、後世の改変を受けている可能性があるという現状認識で良い。

(文化庁) 石積みBは、この下にさらに続いているのか。

(港区) 現場で確認したのは1段のみであり、恐らくないだろう。

(文化庁) 石垣の最下段1段のみを残して、あとは築堤に転用されたと理解した。

(委員長) 北棟南端のトレンチ7の範囲以外の山留打設を可と判断する。今後、トレンチ5とトレンチ7の間の調査を検討してもらうようお願いしたい。

(委員長) 他に何かなければ、次に進める。

#### (4) その他

(委員長) その他は何かあるか。

#### (5) 閉会

(委員長) 特になければ部会②を閉会する。

以上